

「新外来診療棟」での診療開始間近



平成21年3月から工事が始まった「新外来診療棟」が、平成22年2月に完成しました。総面積8,650㎡、総ガラス張り、エスカレーター、エレベーターを備えた3階建ての美しい建物に生まれ変わりました。

建物は、下図のように南ゾーンと北ゾーンにわけて診療科を配置しました。

患者さんの利便性を良くするため、2階東ゾーンには「中央採血室」「採尿室」を配置しました。更に、憩いのスペースとして正面玄関横（バス停側）にカフェテラスを整備しました。

バス・タクシーなどで来院する患者さんは正面玄関を、自家用車で駐車場から来られる患者さんは西玄関を利用されると便利になります。また、西玄関前には、屋根付きの「身障者用駐車場」も整備しました。

患者さんが目的の診療科などにスムーズに行けるように「患者案内システム」を今回新しく導入しました。

今後は医療機器、コンピュータなど各種の機器を整備し、平成22年5月のゴールデンウィーク明け、5月6日（木）から「新外来診療棟」での診療を開始する予定です。

階	南ゾーン	北ゾーン
3階	皮膚科、耳鼻咽喉科、麻酔科	歯科口腔外科・矯正歯科、眼科、泌尿器科
2階	外科、整形外科	内科
1階	総合受付、総合待合	小児科、放射線科、脳神経外科、産科婦人科

休診のお知らせ

新外来診療棟への移転作業のため、外来診療（救急を除く）を休診します。
平成22年 4月30日（金） ご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

子宮頸癌のワクチンについて (子宮頸癌は予防できます)

産科婦人科 山田 直史、山内 憲之、鮫島 浩、池ノ上 克

子宮頸癌の多くはヒトパピローマウイルス (HPV) 感染が原因と考えられています。子宮頸癌に関連するHPVは、主に16型、18型が高リスク型として有名であり、日本では子宮頸癌全体の6割を占めています。HPVは性交で感染しますが、90%は自然消失し、問題となることはありません。しかし10%は持続感染し、特に高リスク型が持続感染すると、子宮頸癌に至る危険性があります。一般に、HPVに感染した人の1000人に1人が子宮頸癌になると言われています。近年、子宮頸癌発症の若年化が問題となっており、20~30代の女性では最も発症率の高い癌です (図1, 2)。その予防のために、HPVワクチンが開発されました。子宮頸癌は、治療する時代から予防できる時代になりました。

現在市販されているワクチンは、16型と18型を対象としたワクチンです。ウイルスの殻だけを用いるために非感染性であり、特に重症な副作用は報告されていません (図3)。接

種対象者は10歳以上の女性です。接種回数は初回、投与後1ヶ月、6ヶ月の3回です。3回接種することで十分な効果が得られます。ただ16型、18型による子宮頸癌は全体の6割であるため、ワクチンを接種しても子宮頸癌が完全に予防できるわけではありません。このことを念頭におき、定期的な子宮頸癌検診を併せて行うことが推奨されています。

ワクチンは主に、産科婦人科、小児科で接種しますが、詳細は当該医療機関にお問い合わせください。

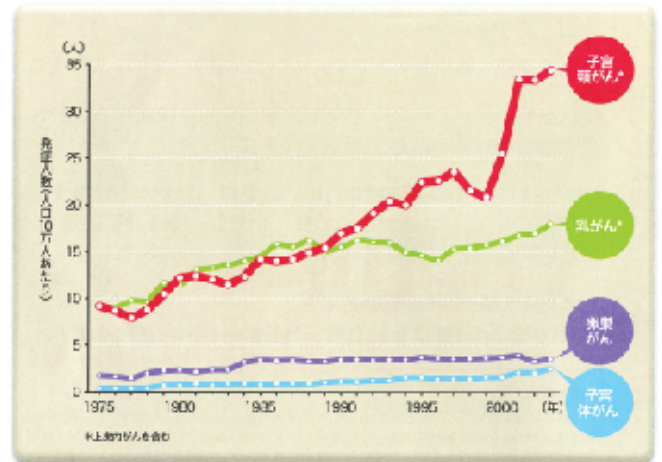


図2. 婦人科領域のがんの発症率推移 (20~39歳の日本人女性)



図1. 子宮頸癌の罹患率と死亡率 (日本人女性)

感染性のないウイルス様粒子(VLP)を抗原として使用しています

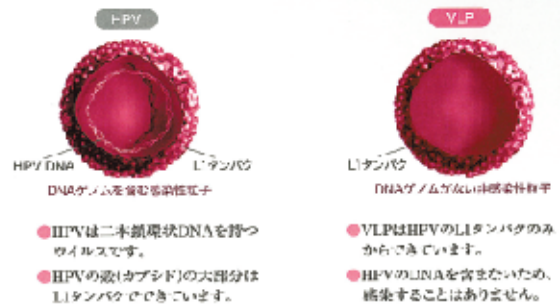


図3. HPVウイルス(左)とHPVワクチン(右)

産科婦人科病棟の紹介

4階西病棟 副看護師長 山之内友子、湯浅 由佳
看護師長 福満 美和

産科婦人科病棟は、産科と婦人科の33床の混合病棟です。

産科は、宮崎県全域から患者さんが入院されます。私たちは、様々な合併症を有する妊婦さんや褥婦さん、そして赤ちゃん（新生児）を対象に、安心して安全な治療が受けられるよう、医師と協力しながら日々看護を行っています。また、平成21年1月には、宮崎県内で初めての助産師外来を開設しました。そこでは、リスクの程度に応じて、医師と助産師が役割を分担して妊婦健康診査を行っています。特に、生活面や心理面を重視した個別的な保健指導や御家族へのサポートを行っています。

婦人科では、良性腫瘍・悪性腫瘍のために手術や化学療法、放射線治療などを行う患者

さんに対して専門性を深めた看護を行なっています。それぞれの治療法について、パンフレットを活用しながら、患者さんが治療や看護を理解・納得して受けていただけるように、努力しています。また、婦人科がん疾患の手術後に発生することのある「リンパ浮腫」や、婦人科がん疾患患者さんへの「緩和ケア」についての勉強会を行っています。そして、患者さんのQOL（生活の質）とご家族の気持ちを尊重しながら、質の高い看護が提供できるよう努めています。

これからも、医師、助産師、看護師、その他のコメディカルとのチームワークを活かし、患者さんに満足していただけるよう、患者さんの心に寄り添った看護を実践していきます。



助産師外来の様子

妊婦さん、ご家族を含めてお話をさせて
いただいています。



リンパ浮腫ケアの様子

患者さんの浮腫（むくみ）の状態に
応じたケアを行なっています。

新集中治療室が完成

集中治療部 谷口 正彦

平成20年11月、16床の新しい集中治療室（ICU）が完成しました。10床が個室で、その中には感染症に対応可能な陰圧室が3室と、免疫力が低下した患者さんを収容する陽圧室が1室あります。この冬は、新型インフルエンザ感染により重い合併症をきたした3名の患者さんが、陰圧室にて集中的な治療を受けました。病室は一般の病棟より広い空間が確保されており、患者さんは医療機器に埋もれることなく治療を受けています。また、天井懸垂システム（写真）を導入することで、医療用チューブや電源コードが床を這わないようになり、衛生面の徹底と作業の効率化が図れています。

先進の医療機器も整備しました。人工呼吸器を15台、持続透析や血漿交換、血液吸着が可能な血液浄化装置を5台、経皮的心臓補助装置を2台、そのほか大動脈内バルーンポンピング装置、超音波診断装置、内視鏡検査装置、熱傷用ベッドなどを配置しています。近年、血液透析を行っている患者さんが手術を受けたり、ほかの重い病気でICUに入室したりすることが増えてきました。血液浄化装置を用いた持続血液濾過透析は

患者さんへの負担が少ないため、ICUでは非常に有用な治療手段になっています。頭部外傷などで脳に重大な障害を受けた患者さんには、体温を厳密に調整できる装置を用いて、積極的に脳低温療法を行っています。また、ICUのベッドはすべて体重測定機能がついており、患者さんが寝たままの状態でも体重の変化を知ることができ、毎日の栄養や点滴の量の調整が可能です。

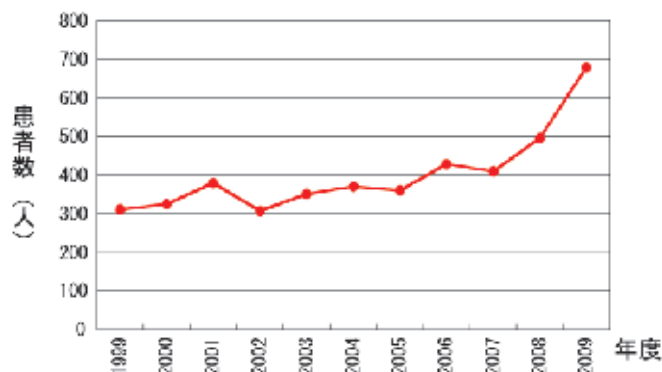
ICUは手術後の患者さんや、呼吸、循環などの急性機能不全の患者さん、外傷、重傷感染症、中毒、熱傷の患者さんなどを収容し、強力かつ集中的に治療と看護を行う部門です。本院のICUは収容患者さんの約6割が手術後の患者さんですが、院内や院外からの救急症例の入室も年々増加しています。以前は、病床が6床と少なく、重症な患者さんの受け入れが難しいこともありましたが、病床増加でそれも解消されてきました。

平成21年12月より16床すべてが稼働になり、専従医師8名、看護師51名が24時間態勢で診療にあたっています。今後も、宮崎の急性期医療の中核としての役割を担っていきたいと考えています。



天井懸垂システム

過去10年のICU入室患者の推移



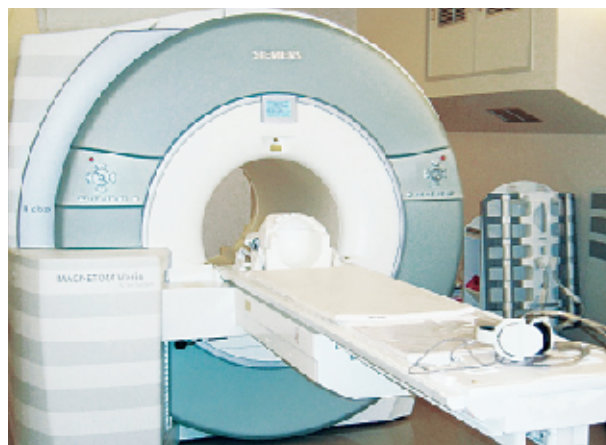
最新型MRI装置を導入

放射線部 技師長 紫垣 誠哉

大口径・高磁場による安心で高精度な検査が可能になりました

MRI装置は長い撮影時間と大きな音が出る上、狭い空間で長い時間じっとしなければならず、閉所恐怖症の方だけではなく、誰もが苦痛に感じます。しかし、今回導入したMRI装置は、今までより口径が10cm広くなり、70cmの開口径で閉塞感が軽減されました。磁石の強さも3テスラという、強い磁場を用いていますので、小さな病変部を鮮明に写し出すことができます。また、従来の3テスラMRI装置では、苦手とされていた腹部領域の撮像も、新技術の開発で、非常に鮮明に撮像できるようになりました。さらに、今まで検査部位ごとにコイルを全交換する必要があったのですが、半分のコイル部分を交換するだけで撮像ができるようになり、検査時間の短縮に寄与しています。患者さんへの検査環境の改善、高画質化

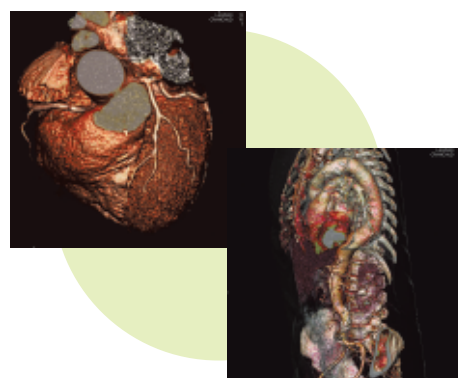
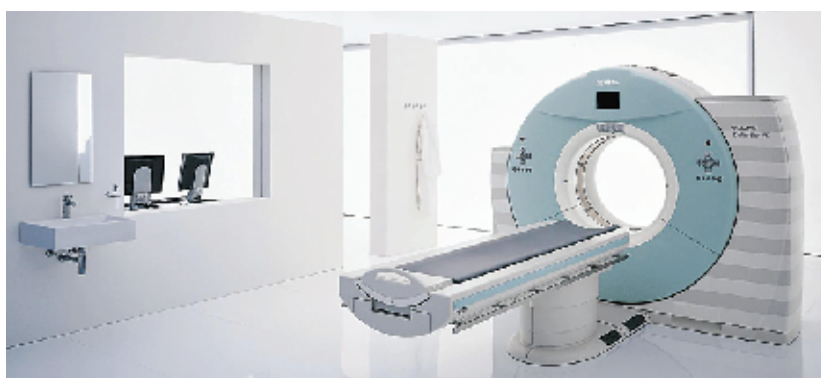
そして検査効率の向上と、非常に良いMRI装置ですので、ぜひ活用してください。



多様な臨床ニーズに幅広く対応する最新のCT装置導入

小児から体格の大きな患者さんまで、また、通常検査から脳梗塞、心臓病、外傷および複合検査に至るまで、多様な臨床ニーズに対応可能な新しいマルチスライスCTが導入されました。さらに、被ばく低減機構により unnecessary X線照射を遮断し、被ばくを最小限に抑えます。

現在のCTは横断像（輪切り）だけを提供する装置ではありません。矢状断（垂直縦切り）、冠状断（垂直横切り）、あらゆる方向から人体を観察することができます。さらに今回のCTでは従来困難であった心臓領域も細部まで観察できます。



防火訓練を実施しました

10月27日（火）職員等約300名が参加して、防火訓練を実施しました。

午後3時、平日の昼間に4階西病棟の洗面室から出火したとの想定で訓練をスタート。非常ベルが鳴り、防災センターから指示を受けた消火班、搬出班や避難誘導班は、迅速に火災現場の初期消火、発火性・引火性危険物の搬出、患者さんの避難誘導などに取り組み、いっどこで発生するかわからない火災を想定して、本番さながらに訓練を行いました。



訓練に取り組む様子

小児科病棟でクリスマス会

12月24日（木）小児科病棟にてクリスマス会が開催され、入院中の子どもさんたちとご家族、医師、看護師など約40名が楽しいひとときを過ごしました。



サンタさんからプレゼント☆

本院の理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

患者さんの権利

～本院は患者さんの権利を守ります～

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受ける事ができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

編集事務

宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200 電話(0985)85-9165